



2025（令和 7）年 12 月 16 日
科学技術振興機構（JST）

インド若手科学頭脳循環プログラム（LOTUS プログラム） 2025 年度公募における交流計画の採択について

JST（理事長 橋本 和仁）は、「国際青少年サイエンス交流事業」インド若手科学頭脳循環プログラム（LOTUS プログラム）において、2025 年度に採択する実施計画を決定しました。

近年、研究力が急激に成長し、優秀な若手人材の宝庫であるインドとの理工系分野の連携強化の必要性は急速に高まっています。一方、世界各国によるインドの理工系人材の獲得競争が激化する中、日印間の人材交流・協力は十分とは言えない状況にあります。

この解決に向けて、LOTUS プログラムは、インドの大学などに在籍する大学院生・ポスドク研究者を日本の大学などに招へいし、日本－インドの大学間の共同研究などに基づき、双方の指導教員による共同指導を受けながら、日本で研究活動を遂行するために必要な滞在費支援を行います（最長 1 年）。これにより、グローバルな「知」の交流促進、国際頭脳循環人材の育成などを目指すとともに、日本－インドの共同研究を通じて、日本の研究力、イノベーション力の強化を目指します。

LOTUS プログラムでは、2025 年 6 月 5 日（木）から 8 月 29 日（金）までの公募期間に合計 621 件の申請がありました。これらの申請について、インド若手研究人材招へい事業推進委員会（委員長：宝野 和博 物質・材料研究機構 理事長）による審議を経て、合計 300 件の採択を決定しました。採択された実施計画における受入れ機関の内訳は、日本側機関が 56 機関、インド側機関が 77 機関となりました。

詳細は、LOTUS プログラムのウェブページをご覧ください。

URL : <https://www.jst.go.jp/program/india/>

＜添付資料＞

参考：国際青少年サイエンス交流事業 インド若手科学頭脳循環プログラム（LOTUS プログラム）における公募の概要

＜お問い合わせ＞

＜事業に関すること＞

科学技術振興機構 経営企画部 さくらサイエンスプログラム推進本部

〒102-8666 東京都千代田区四番町 5 番地 3

庄司 真理子（ショウジ マリコ）

E-mail : jst-india@jst.go.jp ※お問い合わせは電子メールでお願いします。

<報道にすること>

科学技術振興機構 広報課

〒102-8666 東京都千代田区四番町 5 番地 3

Tel : 03-5214-8404 Fax : 03-5214-8432

E-mail : jstkoho@jst.go.jp

<科学を支え、未来へつなぐ>

例えば、世界的な気候変動、エネルギー・資源、感染症や食料の問題。私たちの行く手にはあまたの困難が立ちはだかり、乗り越えるための解が求められています。JST は、これらの困難に「科学技術」で挑みます。新たな価値を生み出すための基礎研究やスタートアップの支援、研究戦略の立案、研究の基盤となる人材の育成や情報の発信、国際卓越研究大学を支援する大学ファンドの運用など。JST は荒波を渡る船の羅針盤となって進むべき道を示し、多角的に科学技術を支えながら、安全で豊かな暮らしを未来へとつなぎます。

JST は、科学技術・イノベーション政策推進の中核的な役割を担う国立研究開発法人です。

国際青少年サイエンス交流事業 インド若手科学頭脳循環プログラム（LOTUS プログラム） における公募の概要

1. プログラムの趣旨

インドは近年研究力が急速に成長し、科学論文の量・質ともに日本より上位に位置しており、また優秀な理工系人材の宝庫（大学生 918 万人、国外への留学 50 万人）です。IT 分野をはじめ世界各国によるインドの理工系人材の獲得競争が激化する中、日印間の人材交流・協力の現状は不十分であり、この早急な拡大と将来的な日本への定着・活躍に向けた支援は、国際頭脳循環の促進や科学技術・イノベーションの発展に不可欠な喫緊の課題です。

この解決に向けて、インドの大学院生・ポスドク研究者を日本の大学などに招へいし、日印大学間の共同研究などに基づく日印共同指導を日本で実施するための研究滞在を支援することにより、インドの優秀な若手研究人材の将来の日本での定着・活躍や国際頭脳循環人材の育成を目指すとともに、日印の共同研究を通じて、日本の研究力、イノベーション力の強化を目指します。

2. 対象分野

科学技術の最先端分野における「国際的な研究コミュニティへの持続的な参画および連携の基盤構築」に資する国際頭脳循環の促進を目指すため、以下①～⑦を中心とする対象とします。

①AI・情報、②バイオ、③エネルギー、④マテリアル、⑤量子、⑥半導体、⑦通信

※上記7分野以外であっても、「日印間の国際協働における重要な基盤として認められる分野」や、「今後日印間で協働して研究を推進することが科学技術力の維持・発展の鍵となる分野」の提案も可。

3. 招へい期間および対象者

これまでの日印間などの交流実績を踏まえ、インドの大学などに在籍する大学院生・ポストドクターを招へいし、両国による共同指導を日本で実施するための研究滞在を支援します。

・招へい期間：最長1年間

・対象：インドの大学などにおいて、大学院生（修士課程、博士課程）またはポストドクターとして在籍している原則40歳以下の者

4. 受入れ機関の資格要件

大学、研究開発法人など国内に研究開発拠点を有し、日本の法律に基づく法人格を有している機関であり、インド側研究機関と共同研究を実施している、または実施を予定している機関。

※所属先のない個人、またはインド側研究機関などからの申請は受け付けません。